



2026年度担当教員と研究・教育の領域、主要著書、論文、作品等



【教授】
山口 美和
(やまぐち みわ)
miwa@juen.ac.jp

保育内容論を担当。幼児期の遊びを通じた主体的な学びや、身近な自然との関わりを通じた直接体験の教育的意義について探究する。周囲の自然や、保育者・友だちといった物的・人的環境との相互作用を通して育まれる幼児期のシティズンシップの芽生えについて、教育哲学的視点から検討している。



【准教授】
白神 敬介
(しらが けいすけ)
shiraga@juen.ac.jp

発達心理学を担当。乳幼児期の発達ならびに保育者への支援について、生態学的アプローチの観点から研究している。さらに絵本や育児メディアを媒介とした養育者、保育者、子どものコミュニケーションの様態について検討している。



【講師】
高田 俊輔
(たかだ しゅんすけ)
shunsuke@juen.ac.jp

児童福祉論を担当。保護者のない子どもや、特別な養育・保護の必要な子どもを公的に支援する社会的養護について、社会福祉学および教育社会学の観点から研究している。特に、児童養護施設や児童自立支援施設で生活をする子どもの教育保障の在り方についてフィールドワークを通して検討している。

開設授業科目例

幼年発達心理学

幼年期（幼児期・児童前期）の発達を中心とした発達心理学の知見について理解し、現代社会における保育・教育活動における課題に対して、発達心理学の知見をもとに思考を深めます。

子どもの発達研究法

子どもを対象とした研究を実施するうえでの基本的な知識と技能の理解を進め、研究活動や研究の成果を保育・教育の実践に活かすことのできる実践力を身につけることを目指します。

幼年教育・保育論

幼年期における公的な教育・保育の制度や組織、実践がどのように展開し現在に至っているのかについて具体的に理解するとともに、共同検討を通して現代の幼年教育・保育を担う教員・保育者が取り組むべき実践的な諸課題を見出し、共有します。

幼年教育・保育研究

現在、直面している幼年期における教育・保育・子育ての諸問題と教員・保育者の役割について、社会変化の視点から総合的に理解するとともに、共同検討を通して履修者各自がそれぞれの立場から取り組むべき実践的な研究課題を見出します。

子どもの生活環境論

子どもが身近な自然や動植物とのふれあいを通して、いのちや環境に対する関わり方を学ぶプロセスについて文献や事例を通して考察します。また、子どもが事物の仕組みに興味を持ち、数量や記号に対する感覚を身につける過程を探究します。

子どもの遊び研究

「遊び」に関する理論や分類について検討することを通して、子どもにとっての遊びの教育的意義を理解します。また、屋外での自然を活用した遊びを実際に経験することを通して、保育現場における遊びの援助や安全管理の実践を理解します。

幼年期の子どもの教育と福祉

児童福祉に関する制度や歴史の変遷といった基礎的知識を概観することに加えて、文献や事例をもとにグループ・ディスカッションを行います。各々の受講者が持つ教育に関する興味関心を福祉の視点からも多角的に深めていくことを目的とします。

教育福祉研究

児童虐待といった子どもに関する様々な問題について教育社会学、社会福祉学の観点から考察します。教育と福祉の両者のアプローチから子どもを包括的にケアすることができるような観点を獲得することを目指します。



附属幼稚園との連携

大学の敷地に隣接して附属幼稚園があるため、附属幼稚園との緊密な連携のもとに実習や研究を行うことができます。附属幼稚園では、園庭をはじめとする自然豊かな環境のもとで、自由遊びを主体とした保育を行っています。実際の幼児教育の現場を間近に見ながら学ぶことができる絶好の環境です。

